

研究所ニュース No.7 4

りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:http://www.f-jinken.com/

人権・平和・環境確立は、世界の理性

～持続する社会の創造に向けて、研究会への参加・研究成果の共有を～

公益社団法人福岡県人権研究所 理事長 森山 沾一

○ 激変の年

会員・関係者の皆様にありましては行く先不透明な時代、健やかに新年を迎え、1年の計を立てたこととお慶び申し上げます。戦後71年、情報化・グローバル化で日本・世界は人類史の大転換です。どんな時代でも幸せは衣食住足り、命の危険がなければ在るでしょう。それすら危うくなっている地球、だからこそ持続する社会の創造が必要です。そのためには、人権、平和、環境が保障される社会を創り続けていくことです。

○ 次のステップへ

研究所は公益社団法人資格を取得して、3年間が過ぎました。初志の福岡部落史研究会からウイングを拡げ、各部会制により活動の活性化をめざしてきました。

自治体・企業関係の住民意識調査や研修・出版物編集受託事業も進めてまいりました。

「全国水平社宣言関係資料世界記憶遺産化」の活動も2015年度総会后記念講演、署名などを通して行いました（この経過と方向は前号掲載）。また、各部会の継続的活動を行う中で、事務局、理事会、執行理事会の組織的基盤がほぼ確立されたと思います。6年間中期計画で言えば基盤整備の2年間を経

て、次のステップ段階の2年間を具体的な目標を立てて推進していく必要があります。

○ 会員の結集・研究成果の共有を

法人化後の大きな活動の柱は前近代・近代部落解放史実の発掘と研修、同和教育や啓発活動に資する資料の作成・提供、自治体意識調査等の受託、そして外国人問題部会、アジアへの人権研修ツアーの実施などです。会員の皆様とともに地道ながら、これらの蓄積を行い各領域で成果を上げてきました。

ところが反面、部会活動やプロジェクト活動が個別化し、会員全体が結集する機会が総会を除き少なくなってきたようです。定例研究会への参画、機関誌『リベラシオン』や出版物の会員による検討・学習会等々を通して研究成果の共有を図ることが必要ではないでしょうか。

今年は松本治一郎没後50周年の集会在11月22日(火)に実行委員会方式で行われる予定です。研究所は『リベラシオン』で特集を組む予定です。また各部会活動とともに水平社宣言世界遺産化の取り組みも継続して行う必要があります。国際人権・平和・環境確立が、世界の理性です。希望の年になることを念じてご挨拶といたします。

第188回定例研究会 (第2回ジェンダー部会) (2016. 1. 31(日)) 報告

「森崎和江と石牟礼道子 — <聞き書き>がひらく世界 —」

講師：井上洋子さん (福岡県人権啓発情報センター館長)

講師のことばから

文化交流誌『サークル村』(1958年)における創作活動の模索の一つが、〈集団創造〉の理念であり、実践としての〈聞き書き〉であった。森崎和江の『まっくら』(1961年)は文字が書けない読めないアトヤマの体験を、森崎が記録し、女性労働者の精神史としてよみがえらせた名作であり、〈聞き書き〉という方法が、ドキュメンタリーから文学へと離陸する可能性を示した点でも画期的な成果であった。森崎のこうした実践に大きな感化を受けたのが、女性交流誌「無名通信」のメンバーである。石牟礼道子『苦海浄土』も、中村きい子『女と刀』も、森崎の実践を抜きに語ることはできない。九州というマージナルな場で、とりわけ女というというマージナルな立場から、なぜ世界的な作品が生まれたのか。

今年のノーベル文学賞受賞者は、ベラルーシの女性作家アレクシェービッチだが、『戦争は女の顔をしていない』(1985年)以来、彼女が一貫して用いたのが〈聞き書き〉という方法、すなわち〈同時代の苦難と勇気の多声的表現〉(授賞理由)であった。森崎、石牟礼をアレクシェービッチの先駆者としてとらえ、〈聞き書き〉の可能性について考えてみたい。

1月31日(日)、ヒューマン・アルカディア視聴覚室に、29名が参加しました。森崎和江さんをはじめとする当時のサークル村の人たちの様子をスライドを交えながら、講師の井上洋子さんの熱のこもったお話に会場に集まった人たちは引き込まれていきました。

井上洋子さんの講演については、今後の『リベラシオン』に掲載の予定です。



参加者の感想から

◇ 彼女らの生き方に心惹かれ、丁寧に読み深め、研究を広範に深められている努力、功績に感銘を受けました。押し入れを探り、書き留めた話に脱帽です。
◇ 勉強になりました。あ

りがとうございました。石牟礼道子氏のことをほとんど『聞き書き』という視点でみたことは、ありませんでした。もっとよく学び、運動に生かしたいです。
◇ 森崎さんと石牟礼さんの声にならない女性たちへのまなざし、情熱を感じた。兩人とも家族(弟)の死を通して、「命」と向きあう。

どうしても「命」が「見える」みえてしまう人間になったんだと思う。その見えないものへのまなざしが生んだ作品に、私ももっとふれてみたい。
◇ 上野英信さんが屋根の上に赤旗をあげたということがおもしろかったです。高群逸枝さんについて再読したいと思いました。

◇ 「聞き書き」が無名な人々の視点からの歴史の生々しい出来事を明らかにし、積極的に生きる人の姿を描き出したことを知ることができて良かったと思いました。私自身の人権に関する知識の不足を感じ、学ぶ必要性も感じました。
◇ 大変興味深いお話でし

た。森崎と石牟礼がサークル村の活動の中から聞き取りに辿り着き、文学まで高めたことは、すごく価値あることだと思いました。
◇ 筑豊の人間ではありませんが、『まっくら』についてはじめて知りました。サキ山、アト山は大きな炭坑ではあり得ないので命がけ

でかつ、厳しい差別を受けたのだらうと思います。
◇ 森崎和江以前の「聞き書き」という方法、「聞き書き」とノンフィクションの違い・特長についてもっと知りたいと思いました。いい学習になりました。ありがとうございました。
(事務局：田中美帆)

投稿 全国人権ネットワー

人権ネット加盟団体から、今号は「ヒューレおおいた」に寄稿していただきました。

市民一人ひとりが互いに尊重し合い共に生きる喜びを実感できるように

ヒューレおおいた (人権啓発センター) (「ホルトホール大分」1階)

ヒューレおおいた(人権啓発センター)は、大分市における人権・同和教育、人権啓発の拠点施設として、2013年(平成25年)7月20日に、大分駅南にオープンした大分市の複合文化交流施設ホルトホール大分の1階に開設されました。【写真下】



設置目的は、「基本的人権尊重の精神に基づき、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に向けた人権啓発の推進及び人権に関する市民の交流を図ることにより、市民一人ひとりが互いに尊重し合い共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現に寄与することを目的とする。」としています。主な事業として、講座・講演会、人権啓発パネルの展示、学校・団体受入による学習・研修、情報収集・提供、人権相談などを

行っています。

事業の紹介

I 講座・講演会
○ 「にんげんセミナー」

地域や企業、PTA等において人権啓発に取り組むリーダーを対象と



した講座「にんげんセミナー」を開催しています。【写真上】

2015(平成27)年度は、8回の連続講座と2回の特別講座を実施しました。

○ 「にんげん劇2015」

2015(平成27)年度は、大分市内の高校生を対象とした「水澤心吾一人芝居『決断のビザ〜杉原千畝物語〜』」を7月に上演しました。戦後70年にあたるこの年に、ユダヤ人6000人の命を救ったと言われる杉原千畝さんを扱った一人芝居をとおして、戦争の悲惨さ、人権の大切さについて若い世代の人たちに考える機会を提供しました。

II <人権啓発パネルの展示>

○ 常設展示

大分市の人権・同和問題に関する取組や基本計画に掲げる重要課題の現状や課題等をパネル化し、センター内の壁面に常時掲示しています。

○ 特別展示

同和問題をはじめとする様々な人権問題について学習する契機として、年間計画の中でテーマを設定し、パネル等の展示会を実施しています。

2015(平成27)年度は、特別展示「原爆



と人間展」、「同和問題啓発パネル展」、「絵本『いのちの花』原画展」

などを開催しました。【写真上】

III <小中学校の受入>

大分市内の全小中学校(小学校59校、中学校27校)を対象に、学校の人権・同和教育の一環とした受入事業を行っています。

○ 講話

「思い込み」による「偏見」が「差別」を生んでいることを講話をとおして学びます。「みんなが言っている。」「昔からやっている。」からというのではなく、自分自身で本当のことなのか確かめていく「批判的思考」の重要性や、一面だけで相手を判断するのではなく、いろんな視点から見て考えることが、相手の理解を深めることにつながることを学びます。

講話の感想(中学生)

無意識のうちに僕たちは物事に対しての思い込み・固定観念を強めてしまっており、そのようなことにとらわれてはいけないということを教えていただきました。

お互いを認め合い、ともに生きていく社会「共生社会」で生きる一員として自分ができることを考えていきたいです。

○ 高齢者・妊婦疑似体験

体験をとおして様々な人の立場で考えることの大切さや様々な人の気持ちを考える行動することの大切さなどを学びます。

IV <情報収集・提供>

○ 人権に関わる情報の収集、提供

人権・同和問題に関する情報や資料を収集し、センター内への掲示等により情報発信しています。【写真下】



○ 広報

- ① 広報誌「ヒューレ bond(ボンド)」発行 市内全戸配布(年1回)
- ② 小中学校用広報紙「ヒューレ通信」発行
- ③ 市内小中学校全学級配布(年1回)

○ 図書・DVDの貸出

センターが所蔵する人権・同和問題に関する図書やDVDを市民・団体・企業等に貸し出しています。

V <人権相談>

人権に関する総合的な相談窓口として、面談等による人権相談に応じています。また、人権擁護委員による相談を毎月第一水曜日に実施しています。

◇皆さまのご来館を職員一同お待ちしております。

(ヒューレおおいた 所長 工藤真久)

ヒューレおおいた(人権啓発センター)
 〒870-0839大分市金池南1丁目5番1号
 「ホルトホール大分」1階
 電話 097-576-7593
 FAX 097-544-5708
 E-mail: hure-oita@city.oita.jp

第4回 「史実と授業・啓発の結合をめざして」 2016年1月22日(金) (福岡市人権啓発センター「若者と考える地域にねざす部落史セミナー」第5回)

福岡市「あいでふ」10階講堂に56名の参加で「第4回史実と授業・啓発の結合をめざして」を開催しました。“これまでの研究によって明らかにされてきた部落史の多様性(福岡の部落史)を学習し、啓発や教育、あるいは運動の現場に活かしていくこと”を目的としています。福岡市人権啓発センター主催の「若者と考える地域にねざす部落史セミナー」(全5回)のまとめの講座も兼ねています。テーマはく福岡の部落史・部落解放史をどう伝えていくか今後の展望—史実をどう活かすか—。



第1講は、当研究所石瀧豊美理事による『差別とは何か』～人権の視点を生かした歴史学習～という講義でした。【写真左】

“差別とは何か”についてや小・中学校の教科書の記述を、授業にどう活かしていくのかなどヒントがたくさん提示されました。

第2講は、当研究所森山沾一理事長による「部落解放史から学んだ生き抜く力」という講義でした。【写真左】自らの部落解放運動、部落解放史に対する思いを体験・生き方とつなげ、部落解放史に学



ぶとは、私たち自身の変革をとおして社会変革をめざしていくことであるという力強いメッセージが提起されました。

2つの講座に応えるように会場からも熱い質疑応答もあり盛会のうちに終わりました。

(事務局: 峰司郎)

参/加/者/の/意/見/感/想

◇ 部落解放史を学ぶことが、学ぶ人自身や未来の社会へとつながるということ、“平等とは何か?”という問いへつながるということが、印象的でした。お話を聞いて勉強になりました。ありがとうございました。

◇ 社会に出て45年、大半は総務・経理担当。福岡市主催の行事にも参加、被差別部落の人を見かけた経験はありましたがそれ以外現実問題に直面することはありませんでした。しかし、現実社会では多面的差別、新しい差別が多く発生、人間の業でしょうか? 貧困が(精神を)そうさせている気がします。参加させて頂き、自分としての問題点が見付かった気がします。今後の課題として勉強予定の方針です。有難うございました。

◇ 石瀧先生の現実重視の社会論、森山先生の哲学性を重んじようとする姿勢。この2つの対比が共に重要でもっと深く学びたいと思った。

◇ 歴史学習を進めていく上での知識が身につきました。知らないことを知った喜びを味わうことができました。まだまだ学びを深めていきたいです。

お知らせ

研究所ホームページで 機関誌バックナンバーなどの注文ができます

- 方法** ① 公益社団法人福岡県人権研究所のホームページを開く ➡ ② 右上「機関誌・出版」を開く ➡ ③ 「機関誌バックナンバーのご案内」を開く ➡ ④ 「リベラシオン」「部落解放史・ふくおか」「出版書籍」で検索 ➡ ⑤ 「ご注文フォーム」入力で 注文確定

第3回外国人部会 (2016.1.16(土)) 会場: ヒューマン・アルカディア

移住労働者ドキュメンタリー「サワー・ストロベリーズ」上映会を開催

「かつてドイツが犯したような過ちを、日本が避けたいのであれば―。本作品は、



外国人労働者がおかれている状況を、より多くの人に知ってもらうために貢献したいという思いから生まれました。」

このドキュメンタリー映画を作成したドイツ人監督たちからのメッセージです。この映画では日系人労働者がおかれている状況、研修生の過酷な労働条件など移住労働者の日本での暮らしがレポートされています。当事者と、政治家や経済界の関係者もインタビューされており、種々の観点から日本における移住労働者の実情を知ることができます。

日本政府は、かたくなに移住労働者に単純労働をさせない方針をとり続け、その上名目と実質に乖離のある外国人技能実習制度をさらに強化拡大しようとしています。自分たちの人権のために戦っている移住労働者との連帯、監督たちの意図、見えない存在である移住労働者たちに見えるようにするための方法など、このドキュメンタリーを観て、参加者で語り合いました。

働者との連帯、監督たちの意図、見えない存在である移住労働者たちに見えるようにするための方法など、このドキュメンタリーを観て、参加者で語り合いました。

(外国人部会長 松本京子)

参/加/者/の/感/想

◇ パスポートの没収、タコ部屋のような住宅、「外国人お断り」など、マスコミを通じて知ってはいましたが、テレビとは取材の仕方がちがうと思いました。日本に住んでいる外国人にも格差があります。子どもの頃在日の同級生がいました。思うことはいっぱいあるのですが…。

◇ DVDの中での言葉にびっくりしたことがたくさんありました。私たちには見えない部分があることもあらためて知りました。外国人の仕事内容やその中で行われていることにびっくりしました。もう一度『リベラシオン』No.154を読もうと思います。

* DVDは、研究所にあります。

企画・脚本・編集

- *監督: ティルマン・ケーニヒ
 ダニエル・クレーマース
- *自主製作: ドイツ・日本(60分)
- *製作年: 2009年(撮影2008年3月)
- *言語: ドイツ語・日本語・英語(日本語字幕)

部会活動紹介
人権教育の視点をもった豊かな学びの場、それが
教育部会
教育部会長 税所賢一

人権教育は、差別を受けている人のものでなく、予断や偏見にとらわれない自分になり、差別をしないことはもちろん、差別をなくしていける自分になるための教育です。

しかし、実際に日々の生活の中では、気づかないう

ちに相手を傷つけてしまったり見えない形として相手に伝わったりする状況や場面向かい合うときがあります。

この小さな行為や行動が積み重なることによって、相手との利害関係が生じてしまいます。これが差別と

して表面化するのではないのでしょうか。

差別は、個人や集団を問わず内面にある見えない形のもの、あるきっかけで言動となって、見える形として現れてくるのです。

だからこそ、わたしたち教師は、自己研修等を行う中で、常に自分自身の人権感覚、学び続ける姿勢を問い直すことを大切にしています。さらには実践してきた人権教育を振り返っていく構えをもたなければならぬと思います。

このような学びの場となっているのが「教育部会」です。【写真下: 学習会】



毎月一回、小学校・中学校・高校などの教師が参加しています。まず、レポート報告を行います。それをもとに参加者が自分の実践を出し合い協議します。そして自分を振り返ります。

分析から始まる“学びの場”の過程とわたしは考えています。「課題・差別の現実」⇒「要因・分析」⇒「思考・判断」⇒「真理の追究」という段階的な学びの流れが浮かんできます。

わたしはこの過程に沿って人権教育を推進したいと思っています。

今年度は、教育部会の目標を次のように掲げ、学習会を行って来ました。

(1) 福岡県の人権教育の取り組みを「学び・市民性」をキーワードに考察し、人権尊重の視点に立った学校づくりに活かす(自立・自己実現を図るための支援―進路と学力の保障―)。

(2) 人権問題を取り巻く状況が厳しくなる中で、保幼・小・中・高のこれから

の人権教育の展望を探る(人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成―人権尊重精神の育成―)。

ここに挙げている「学び・市民性」を人権教育の視点から今後も学習会をとおして深めていきたいと考えています。

今年度は、教育部会長となり、「水平社の模擬授業」も行いました。人権教育の実践面にもつながる教育部会として充実させていきたいと考えています。

最後になりますが、韓国に昔から「行く言葉が美しい」ということわざがあります。私たちの日々の会話には、自分自身の人権教育の姿を垣間見ることができません。

学習会に参加するたびに新たな気づきがたくさんあります。本当に毎回の学習会が楽しみです。

みなさんの参加をお待ちしています。

研究所の基盤は会員と会費
会員拡大と会費納入のお願い

公益社団法人の財政基盤は、個人会員・団体会員による年会費です。年会費は個人会員6,000円(学生会員3,000円)、団体会員は10,000円。

機関誌『リベラシオン』((1,000円+税)×年4回)、ニュースをお届けします。研究所刊行物の割引、蔵書や資料の利用、主催事業参加費の割引など、特典いろいろ。ぜひお知り合いにも加入の呼びかけを! 決算の時期です。

会費未納の方は至急納入お願いします!

公益社団法人福岡県人権研究所

2016年度定時会員総会

・総会後記念講演

日時: 2016年5月29日(日) 13:00開会

場所: 福岡県人権啓発情報センター

視聴覚室(ヒューマン・アルカディア)

〒816-0804 春日市原町3丁目1-7

クローバープラザ7階 (JR春日駅近く)

Tel. 092-584-1270

記念講演など、詳細は次号で。

事／務／局／日／誌／か／ら (2015.12.20～2016.02.29 講師等敬称略)

12月

- 20日 海外人権スタディツアー企画部会(福岡市)
- 21日 事務局会
- 22火 部会長・特別プロジェクト代表・運営委員合同会
- 25金 ニュース「リベらしおん」No.73発行
- 26土 第7回教育部会(福岡市/報告;税所賢一「水平社模
擬授業」)
- 29火 年末・年始閉局(～1/3(日))

2016 (H28) 年 1月

- 4月 仕事始め
- 5火 事務局会
- 8金 部落解放同盟福岡県連合会新年旗開き(福岡市)
- 9土 部落史研究部会、古文書プロジェクト(古賀市)
部落解放同盟福岡市協議会新年旗開き(福岡市)
- 11月 成人の日
- 12火 事務局会
- 15金 大牟田市人権のまちづくり啓発リーダー養成講座(第5・6回/大牟田市)
第65回松本治一郎・井元麟之研究会
- 16土 九州地区部落解放史研究連絡協議会(熊本市)
第3回外国人問題部会(春日市/移住労働者ドキュメンタリー上映会)
- 17日 第5回執行理事会
- 18月 編集委員会
- 22金 「史実と授業・啓発の結合をめざして」(兼福岡市人権啓発センター「若者と考える地
域にねざす部落史セミナー」第5回/石瀧豊美『差別とは何か』-人権の視点を生か
した歴史学習-)、森山浩一「部落解放史から学んだ生き抜く力」)
- 28木 吉塚合同庁舎消防訓練
- 31日 第188回定例研究会(兼第2回ジェンダー部会/井上洋子「森崎和江と石牟礼道子-
聞き書き>がひらく世界-」)

住民意識調査等の受託
事業に関する事務、研究
・研修や教育・啓発に関
する相談業務、研修会の
企画・運営、講師依頼へ
の対応、補助金申請や事
業報告、公益法人関係事
務、関係機関・団体等と
の連携・調整事務等につ
いてはスペースの関係で
省略しています。

2月

- 2火 事務局会
- 5金 法人会計等現地調査来局
- 6土 第7回教育部会(福岡市/)
- 8月 事務局会
- 15月 事務局会
- 21日 第6回啓発部会(福智町)
- 26金 第66回松本治一郎・井元麟之研究会
- 29月 事務局会

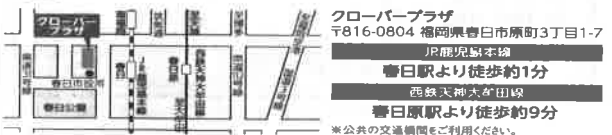
イベント紹介 もう、行きました？

第40回特別展 輝く～スポーツと人権～

平成27年 平成28年
期間 **12月1日(火)** ▶ **3月20日(日)**
9:00～21:00(日祝日は17:00まで)
*休館日は前4月曜を除く月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日。
ただし年末年始の休館日は平成27年12月26日(月)～平成28年1月4日(月)。

入場料 大人200円/高校・大学生100円(団体割引あり)
中学生以下・65歳以上等は無料

場所 **クローバープラザ [7階]**
福岡県人権啓発情報センター(ヒューマン・アルカディア)



展示内容.....

- 基本的人権としてのスポーツ
- オリンピック・パラリンピックと人権
- すべての人にとってのスポーツ
- スポーツに関係する人権問題
- スポーツ組織と連携した啓発活動
- 特設コーナー 関連資料の展示
「リーグが推進する人権啓発活動」

関連イベント.....

映画「インビクタス 負けざる者たち」(132分)
監督/クリント・イーストウッド 主演/モーガン・フリーマン、マット・デイモン
日時 平成28年2月7日(日) 10:00～12:20
場所 クローバープラザ1階 クローバーホール

主催/福岡県、(公財)福岡県人権啓発情報センター
後援/福岡県教育委員会、福岡県人権啓発活動ネットワーク協議会

お問い合わせ
(公財)福岡県人権啓発情報センター
TEL 092-584-1271
http://www.fukuokaken-jinken.or.jp

ひとりで悩まずご相談ください
みんなの人権110番
0570-003-110
*最寄りの法務局、地方自治局につながります。